

浄妙寺旧蹟

〔六地蔵町より宇治道の南一町余にして、又東に入る事二町ばかりにあり。今古木あり。此寺は御堂

関白道長公の建立せらるゝよし、本朝文粹に載たり〕

後近衛関白みまかりて浄妙寺に送りをき侍ける時、常には日野の

山庄に通ひ侍ける事を思ひ出て

新後拾遺集

木幡山君がゆき、はなれにしをかちよりをくる旅ぞ悲しき

高階宗成

木幡神社

〔木幡里路の北にあり、柳大明神と号す、祭神前編に見へたり〕

〔或記云、一とせ此村に牛の煩ふ事ありて、日毎に多く死うせければ、郷民神々に祈念しけれど験なかりし程に、近衛殿へ参りて此事を歎き申ければ、仰に云く、所の神を何とかいふぞと御尋あり、柳明神ましますと答へ侍れば。歌を讀て参らせられしを神殿に捧げ申てより、たちまち此わざわひ止みて侍るとなん申伝へける〕

あはれみをたる、柳の神なればしぬるをうしと思はざらめや 近衛応山公

田中社

〔同所民居の北一町許林の中にあり、当地地主神なり〕

## 尊勝山願行寺

〔木幡里こはたのさと〕にあり。本尊阿弥陀あみだ仏は天照太神てんせうだいにじんの告命によつて当寺に安置す。開山は慈心上人にして、

浄土宗鎮西流義六派の中木幡流義の宗祖なり。姓は藤原氏にして衣笠大納言定能卿きぬがさだいながこんの孫少将定親さだちかの子なり、法然上人ほふねん滅後相州鎌倉光明寺の祖良忠上人を師範として、一宗の要義を修学し、五ヶ年を経て洛に帰り、此地を草創して木幡山尊勝寺と号す。それより年経て荒廢におよびしを、十九世深誉上人しんよ天正年中に中興し、今の如く号を改めて再建せられけり〕

## 浜薬師

〔同所里の東にあり。村上寺と号す。本尊薬師やくし仏は海浜出現の像なり、立像七寸。又傍の小堂に観音を安置

す、開基不詳〕

## 不焼地蔵

〔村上寺の南半町にあり、能化院と号す。本尊地蔵尊は恵心の作、坐像七尺許。伝云、いにしへ此所回祿けうらくの時此尊像飛んで林中に坐す、四方に奇瑞を感じて詣人夥し、故に不焼地蔵と称す。開基は教山和尚けうざん、今曹洞宗これを

守る〕

## 金岡宅

〔伝云、画工金岡巨幡に住しとなり、宅地今詳ならず。金岡が伝に云、光孝天皇くわうかうの末葉にして、姓は紀氏きし、

諱は円深えんしん、号は普天子ふてんし、又朝日阿闍梨あざりといふ。宇多天皇うた仁和四年勅に依て御所の障子に鴻儒の像を書す〕

旧記に曰 賢聖の障子は南殿にあり〔八間各四人〕東四間にして一間〔馬周、房玄齡、杜如晦、魏徵〕二間〔諸葛亮、  
遽伯玉、張良、第五倫〕三間〔管仲、劉禹錫、子産、蕭何〕四間〔伊尹、伝説、太公望、仲山甫〕西四間にして一  
間〔李勣、虞世南、杜預、張華〕二間〔羊祐、楊雄、陳寔、斑固〕三間〔桓榮、蘇武、鄭玄、倪寛〕四間〔董  
仲舒、文翁、買誼、叔孫通〕

平家物語曰 かの清涼殿の画図の御障子には、むかし金岡が書きたりし遠山の有明の月もありとかや。

木幡河〔木幡里の西にあり、宇治川の支流にして、六地蔵の東にて又宇治川に入。一説宇治川の流をいふ〕

拾道 木ばた川こはたかいひし言の葉もなき名す、がむ瀧つせもなし よみ人しらず

玉吟集 いかにせん人の心は木幡川月はふれども渡るせもなし 家 隆